

大学教育センター 教育開発部 活動報告

平成28年3月8日の規則改正により大学教育センター内に教育開発部が設置され、学士課程教育全般の教育改革や授業改善、第3期中期目標・中期計画に関する企画・実施に当たることになった。本報告では、大学教育センター教育開発部に関する設置の経緯、現在までの活動状況、今後の活動及び課題等について、概要を報告する。

1 教育開発部の設置の経緯

教育開発部は、平成28年3月8日に山口大学大学教育センター規則が改正され、次の事項の企画、改善及び実施の業務を行うことになった。

- (1) 大学教育研究組織に関すること。
- (2) 共通教育に関すること。
- (3) 専門教育システムに関すること。
- (4) 厳格・公正な成績評価に関すること。
- (5) 教授内容・方法の改善及び向上のための研修会に関すること。
- (6) その他大学教育に関すること。

本年度は、現在進行中の第3期中期目標・中期計画の内、【11】(YU Cob CuS やポートフォリオの全学展開)、【12】(アクティブ・ラーニングを含むFD、SDの充実)等を中心に以下、2で示すさまざまな活動をこれまで行ってきた。それ以外にFD・SDの企画・検討、2019年度に本学で開催予定の「中国・四国地区大学教育研究会」のプログラムの検討や基調講演者候補者の選出を行った。

2 現在までの活動状況

2.1 中期目標・中期計画の進捗管理

教育開発部では、中期目標・中期計画の年度報告、年度計画の検討を行った。現在、第3期中期目標・中期計画(平成28年度～平成32年度)の3年目、ちょうど中間期を迎えているが、大学としては各計画を平成31年度までに、できるだけ完成に向けた道筋を立てるために、現在推進している各計画をより実現性および完成度の高い取組にすべく、進捗管理等に努めてきた。以下、主な取組の進捗状況を報告する。

2.2 YU Cob CuSの進捗状況

YU Cob CuSの全学展開に関しては、平成30年8月に理系学部の導入に関する検討会を開催し、導入の事例紹介を行うとともに意見交換をした。今年度は、理学部、農学部、共同獣医学部が導入する予定である。また、教育学部、医学部においては、学部独自の学修成果可視化システムを運用し、工学部については、来年度の導入を目指す。

2.3 FD・SDの進捗状況

教育の質を担保する教学マネジメント強化のための教職員の専門性向上を重視し、学生の多様性(社会人、留学生、障害のある学生等)に係る支援方法に対応する教職員の育成及びアクティブ・ラーニング等の教育方法に対応する教員の育成に組織的に取り組むため、教職員・学生協働を通じたFD及びSDをこれまで教育開発部やAP室が推進してきた。別稿ですでに概要を紹介した通り、本学のFDおよびSDは開催回数や参加者人数等でさらに、研修の質や内容において他大学と比べて遜色のない内容となっている。

2.4 その他の取組状況

「ナンバリング」やここ2年ほどかけて取り組んできた各学部のDP及びCPの見直し作業に伴って実施してきた「カリキュラムマップ、カリキュラムフローチャートの改訂作業」は順調に進み、本年度中、作業は終了する見込みである。ただし、改組学部・研究科については3つのポリシーの見直しが保留されていたため、改組学部・研究科は完成年度を迎えたことから、該当学部・研究科はアセスメント・ポリシーを含む見直しを行う予定である。

3 その他の教育開発部の取組

教育開発部が上記以外に取り組んだ内容としては、2019年度に本学で開催予定の「中国・四国地区大学教育研究会」のプログラムの検討や基調講演者候補者の選出を行った。

また、新任教員研修会の研修内容の見直しを行った。当該研修は人事課が年2回開催している研修会であるが、第1回目（4月開催）と第2回目（9月）の研修内容に重複や過不足があるという指摘もあり、研修内容の見直しを実施した。その結果、本年度の第2回目は「新任教員のための大学教員準備講座」と銘打って9月27日に開催した。大学教育センター全体で新任教員にとって必要だと思われる研修内容を協議・検討し、4名の大学教育センター専任教員が講師を分担して、研修を実施した。また、実施後、来年度の新任教員研修会に向けてセンター内でFDを実施した。

4 今後の活動及び課題

平成31年度に教育開発部として実施しなければならない内容としては、まず、YU

Cob CuS やポートフォリオの全学展開を確実に実施していくことである。各学部と協議を重ねながら中期目標・中期計画が達成できるように調整を図っていく必要がある。

FD・SDに関しては、学生のラーニング・サポートの内容を充実していく必要がある。すでに、これまでラーニングアドバイザー養成講座が複数回開催されているが、学生のニーズに合った修学支援はどうあるべきかを大学教育センター全体で協議・検討していく必要がある。

英語カリキュラム改革については、すでに検討部会から改革案が示されており、教学IR部が実施後の検証作業を行うことが今後必要であるが、教育開発部としてもカリキュラム改革の成果と課題を注視していく必要がある。

全学FD・SD講演会に関しては、毎回、テーマ設定や開催時期、参加者の募集等の課題を抱えているが、大学全体として取り組むべき教育課題を大学教育センター全体で協議して決定していく必要がある。その際に、学部の意向やニーズをセンター主事の先生方から意見を聴取しながら決定していく必要がある。教育改善FD研修会やアラカルト研修会のテーマ設定や研修内容の検討に関しても同様な取組が必要である。

文責：大学教育センター 教授

教育開発部

小川 勤